

# 見てみよう！歴史災害記録と旬のあいち



|         |    |    |    |    |    |    |
|---------|----|----|----|----|----|----|
| January |    |    |    |    |    |    |
| S       | M  | T  | W  | T  | F  | S  |
|         |    |    |    | 1  | 2  | 3  |
| 4       | 5  | 6  | 7  | 8  | 9  | 10 |
| 11      | 12 | 13 | 14 | 15 | 16 | 17 |
| 18      | 19 | 20 | 21 | 22 | 23 | 24 |
| 25      | 26 | 27 | 28 | 29 | 30 | 31 |

January 2025 vol.129

## ◆ 神戸港震災メモリアルパーク

所在地：兵庫県神戸市中央区波止場町

交通：地下鉄海岸線「みなと元町」駅 南東 約 800m

平成 7(1995) 年 1 月 17 日 午前 5 時 46 分、淡路島北部を震源とするマグニチュード 7.3 の直下型地震・兵庫県南部地震が発生しました。この地震では、観測史上初めて震度 7 の揺れとなり、兵庫県を中心に甚大な被害をもたらし、阪神・淡路大震災と呼ばれる大災害となりました。

地震による被害は、死者 6,434 名、行方不明者 3 名、負傷者 43,792 名とされ、津波を伴わない地震としては戦後最大の被害となり、住宅の全壊は 10 万棟を超え、多くの人々が住む場所を失いました。テレビでは、古い木造家屋が倒壊し火災が広がる様子や、中間階が潰れた神戸市役所の庁舎、橋脚が横倒しになり切断された阪神高速の路面から奇跡的に落下を免れたバスなど、衝撃的な映像が次々と流れ、被災地の惨状を全国の人々が目にすることとなりました。

未曾有の大災害となった阪神・淡路大震災は、日本の地震防災に大きな影響を与えました。当時は、震度 7 の判定は現地調査により決定することになっていましたが、判定に時間を要したため、以後、気象庁の震度計による観測データに基づき、早期に発表することとされました。

また、地震後には、全国から多数のボランティアが被災地に応援に入りました。しかしながら、当時は行政側の受入体制が整っていなかったことなど、多くの問題が指摘され、これを受け、災害対策基本法の改正により、ボランティアによる防災活動の環境整備が進められることとなりました。平成 7 年はボランティア元年とも呼ばれています。

住宅の建設・補修などに支援金を支給する、被災者生活再建支援制度が整備されたのも、阪神・淡路大震災後です。さらには、昭和 56 年以前に建てられた旧耐震基準の住宅・建築物の倒壊による犠牲者が顕著であったことから、耐震改修促進法が制定され、耐震診断や耐震改修に係る補助、融資、税制の優遇措置が講じられることとなりました。

地震に関する調査研究や成果の周知などを担う、地震調査研究推進本部が設置されたのも、阪神・淡路大震災を受けてのことです。このほかにも、阪神・淡路大震災をきっかけに、地震防災対策が強化された事例は数多くあります。

神戸港のメリケンパークの一角に整備された神戸港震災メモリアルパークは、震災の教訓を後世に伝えるための施設です。パークでは、被災したメリケン波止場の一部がそのままの形で保存され、神戸港の被害の大きさを伝えているほか、復興への道のりなどの展示も行われています。

阪神・淡路大震災をきっかけとした、地震と災害に対する防災と減災への人々の切なる願い、これを世界に先駆ける試みが人と防災未来センターです。センターは、平成 14(2002) 年に国と兵庫県の協働により設置され、展示、資料収集・保存、実践的な防災研究・若手防災専門家の育成、災害対応の現地調査・支援、災害対策専門職員の育成、交流ネットワークの 6 つの機能を備えています。メインとなる展示施設は、阪神・淡路大震災を伝える展示ゾーンの西館と、これからの防災・減災を学ぶ展示ゾーンの東館で構成され、シアターでの震災追体験や、語り部による体験談、BOSAI サイエンスフィールドなど、館内を巡ることで、災害に対する正しい知識を身につけることができます。

日本の地震防災に大きな影響を与えた阪神・淡路大震災から令和 7(2025) 年 1 月で 30 年を迎えます。いま一度、地震の多い国・日本であることを認識し、備えを進めましょう。



(上) 被災したメリケン波止場  
(下) 人と防災未来センター



災と Seeing(22) 阪神淡路大震災

([http://www.cck-chubusaigai.jp/sai\\_seeing/detail\\_22.html](http://www.cck-chubusaigai.jp/sai_seeing/detail_22.html)) もぜひ併せてご覧ください。



◆ 災害にまつわる碑や史跡には、実際にその地域で起こったことが記録されているだけでなく、当時の人たちの思い（二度と被害を繰り返さないように、など）が込められています。碑や史跡の前では、災害が実際にこの地域で起こるということを実感していただくとともに、そうした先人たちの声に耳を傾け思いを巡らせ、身の回りの備えにつなげ、これからの防災に活かしてください。



## ◆見てみよう！歴史災害記録と旬のあいち バックナンバーから

### ●三河地震にまつわる碑や史跡

今年は、昭和 20(1945) 年 1 月 13 日に発生した三河地震からも 80 年の節目の年になります。三河地震は深溝断層・横須賀断層という 2 つの断層の活動により引き起こされた地震で、被害が大きかったのは、幸田町、蒲郡市の深溝断層の近辺と、安城市、西尾市の横須賀断層の先の地盤の緩い平野部です。碑や史跡は、この 2 つの断層に関連する地域に集中しており、これまでに数多く取り上げてきました。

蒲郡市の形原神社には、三河地震の大災害から 33 年を記念して建立されたわすれじの碑があります (vol.9)。深溝断層近辺では、断層活動が保存された場所もあり、蒲郡市の宗徳寺では、三河地震によって生じた地割れがそのままの姿で保存され、市の天然記念物となっているほか (vol.62)、幸田町の深溝断層の断層跡では、地震の際に生じた約 1.5m の隆起と約 1m の左ずれの様子が理解できるように、断層

の上盤面と下盤面に、地盤のずれの量を示す支柱が設置され、保存されています (vol.33)。

安城市や西尾市では、揺れの強かった矢作川周辺を中心に慰霊碑が残されています。安城市藤井町の三河地震追憶之碑は、藤井地区で犠牲になった方々を慰霊し教訓を後世に伝えるため、昭和 52 年に建てられました (vol.16)。また、西尾市上横須賀町の春日神社には、三河地震で犠牲になった 130 人の氏子を供養するための、三河大地震之碑が建てられています (vol.28)。

こうした身近に残された史跡から、あらためて教訓を感じ取り、地震への備えにつなげていきましょう。



(上) 深溝断層の断層跡  
(中) 三河地震追憶之碑  
(下) 三河大地震之碑

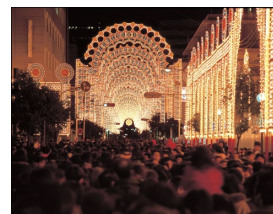
◆詳細は、見てみよう！歴史災害記録と旬のあいち (<https://www.gensai.nagoya-u.ac.jp/rekishijishin/geppo.html>) をご覧ください。

## ★神戸ルミナリエ

神戸ルミナリエは、阪神・淡路大震災が発生した 1995 年の 12 月に、震災からの復興に向け、神戸の街と市民に勇気をもたらすために開催されたイベントで、犠牲者への鎮魂と震災の記憶を後世に語り継ぐ、まちと市民の希望を象徴する行事です。第 1 回は、11 日間の会期中に 254 万人の方が訪れました。以後、継続して開催され、2025 年 1 月には第 30 回が、東遊園地、旧外国人居留地、メリケンパークで開催されます。(1 月 24 日(金)から 2 月 2 日(日)まで)

「ルミナリエ」はイタリアの「電飾」の意味に由来し、色とりどりの電球で三次元的な芸術空間を創造するスタイルは、中世イタリアの祝祭装飾が起源であるとされています。毎年作品テーマに沿ったデザインに合わせた部材がイタリアで手配され、神戸に運ばれて組み立てられています。

第 30 回の作品テーマは「30 年の光、永遠に輝く希望」です。多くの人々にとって希望の象徴となった「神戸ルミナリエ」は、震災からの復興を遂げ、さらなる強さと美しさを備えた神戸の街の未来へと続く希望の灯火として、これからも神戸の街と訪れる人々の心を照らし続けます。



神戸ルミナリエ HP より  
(上) 第 1 回 (下) 2023 年

### ●ブレイクタイム●

#### ♪ メリケンパーク・ハーバーランド

メリケンパーク・ハーバーランドは、神戸を代表するランドマークが並ぶ観光スポットです。神戸港や市街地を一望できる神戸ポートタワーは、2021 年度から 2023 年度にかけて、耐震補強を含めたリニューアル工事が行われ、タワー最上部の屋上に展望テラスが設けられました。このほかにも、1890 年代後半に建造された神戸煉瓦倉庫、夜には約 12 万個の LED を使用したイルミネーションが鮮やかなモザイク大観覧車などがあり、港町・神戸の雰囲気を楽しむことができます。



Feel KOBE HP より

◆この地域の災害に関する碑・史跡、資料・体験談集、地域に残る古文書、研究資料、郷土史研究者・団体などの情報がありましたら、[gensaisan2014@gmail.com](mailto:gensaisan2014@gmail.com) まで情報をお寄せください。

◆この地域の歴史災害記録をオンラインツアー形式、マップ形式で紹介しています。各地の碑や史跡等にご興味をお持ちいただけましたら、『Saito Seeing』のホームページ (<https://www.saitoseeing2020.jp/>) をぜひご覧ください。

(発行：減斎の会・名古屋大学減災連携研究センター 2025 年 1 月)